

春、シーズン到来!!再確認しておきましょう。

プレーの前に知っておきたいこと。

監修：JGA規則委員会副委員長 CGA規則委員 内田 洋一郎氏
出典：ゴルフルール早わかり集

基本事項

エチケットの考え方

ゴルフはほとんどの場合、審判員なしにプレーされます。したがって、ゴルフ規則はプレーヤーの1人1人が規則を誠実に守ってプレーすることを前提に作られており、わざと規則違反をしたり、他の人を騙したりするプレーヤーがいることを考えてはいけません。プレーヤーは常に他のプレーヤーに心配りをし、コースを保護し、安全を確認しながら礼儀正しく、スポーツマンシップを示して行動すべきなのです。

ローカルルールとは

ゴルフではそれぞれのコースで自由に規制を作ってもよく、それがローカルルールだと考える人がいますがそれは間違いです。ローカルルールというのは地域的な異常な状態に対応するために委員会によって作られるルールであり、規則に矛盾するものであってはなりません。ゴルフ規則書付属1では制定が認められるローカルルールの参考例が掲載されています。

認められないローカルルール

ゴルフ規則を無視、あるいは矛盾するローカルルールを制定することはできません。その大きな理由として、もしそのようなローカルルールを制定してそのローカルルールに関連した紛議が生じた場合、規則に基づいて裁定することができなくなるからです。もし、そのようなローカルルールに関して紛議が生じた場合はそのようなローカルルールを制定した委員会がその解釈を示さなければならぬこととなります。認められないローカルルールには次のようなものがあります。

- 前進4打：OBなのに元に戻らず前から4打目としてプレーするもの
- トラ杭：隣のホールに行った球を1打の罰を加えプレーしているホールにドロップするもの
- パッティンググリーン上でパター以外のクラブの使用を禁止するもの
- 違反クラブの使用を認めるもの

正規のラウンドとは

規則の規定で「正規のラウンド中は」という言葉が出てきますが、正規

のラウンドとはいつから、いつまでのことを意味しますか？

A 正規のラウンドは通常18ホールで、1番ホールの第1打をプレーしたときから正規のラウンドはスタートします。そして、18番ホールをホールアウトした時点で正規のラウンドは終了します。

27ホールで行う競技は、18ホールと9ホールの2つの正規のラウンドから成ります。

また、ストロークプレーでプレーオフを行う場合、そのプレーオフは別の正規のラウンドとなります。

「公正の理念」とは

Q ゴルフ規則でいう「公正の理念」とは、どのような意味なのですか？

A 「公正の理念」とは、ゴルフ規則に規定されていないような事が起き、規則の規定に基づいて裁定できない場合に適用する考え方です。規則の規定がないので、類似の規則や裁定の解釈、他の競技者との利害関係などを考えて、公正の理念に従って裁定を行うのです。(R1-4)

告げる必要があるかどうか

規則の中ではマーカーや同伴競技者に告げなければならない処置があります。ここでは、告げる必要のあるもの、ないものを簡単にまとめました。なお、告げる必要がないというのは告げなかったことが規則違反とはならないということであり、競技者同士が慣習的に確認し合っていることを否定するものではないことに留意して下さい。

「告げる必要のある処置」

● 規則3-3に基づいて2つの球をプレーする場合

規則3-3を援用すること及びどちらの球を採用したいかを前もってマーカーまたは同伴競技者に伝えなければなりません。

● プレーに適さない球かどうか確認するための拾い上げ(R5-1-3)

● 球を拾い上げる旨をマーカーまたは同伴競技者に告げ、球を確認する機会を与えなければなりません。

● 自分の球かどうかを確認するための拾い上げ(R12-2)

● 球を拾い上げる旨をマーカーまたは同伴競技者に告げ、球を確認する

機会を与えなければならない。

● 暫定球をプレー(R27-2)

● 暫定球をプレーする前に暫定球をプレーすることをマーカー、または同伴競技者に告げなければならない。

「告げる必要のない処置」

- 動かせない障害物からの救済
- 異常なグラウンド状態からの救済
- ウォーターハザードの救済
- アンプレヤブルの処置 など

規則を知っておく責任

規則を知っておく責任はプレーヤーにあります。したがって、他の競技者から間違った情報を与えられて規則違反をしたとしても、その責任はプレーヤーが負うこととなります。「マーカーが言ったから」とか、「同伴競技者にOKをもらったから」という言い訳は受け入れられないのです。

処置について疑問がある場合(2つの球をプレーする)

規則がわからず、どのように処置をして良いかわからない場合、プレーヤーは2つの球をプレーし、スコアカードを提出する前に委員会に裁定を

求めることができます。この場合の処置は次の手続きによって行われなければなりません(R333)。

- ①疑問となる状況が起きて、次の行動に入る前に2つの球をプレーすることをメーカーが同伴競技者に告げなければなりません。そして、2つの球のうち規則で認められるのであればどちらの球でのスコアを採用したいかも告げておかなければなりません。
- ②プレーヤーは2つの球をプレーし、両方のスコアを記録しておきます。そしてスコアカードを提出する前に委員会に2つの球をプレーしたことを告げて裁定を求めなければなりません。2つの球をプレーしたことを告げずにスコアカードを提出すると競技失格となります。
- ③委員会が裁定を行い、規則に基づいてプレーされたほうの球でのスコアがそのホールのスコアとなります。両方とも規則に基づいてプレーされていると裁定された場合、プレーヤーが①で採用したいと告げていた球でのスコアが採用となります。

キャディーの規則違反

自分のキャディーが規則違反をした場合、その罰はプレーヤー本人が受けることとなります(R611)。つまり、プレーヤーは自分のキャディーの行動に責任を持たなければならないのです。

キャディーを共用している場合、球が関連しているときはその球の持ち主のキャディーとなります。例えばA、B、C、Dの4人のプレーヤーで1

人のキャディーを共用している場合、Aの球がキャディーに当たった場合、キャディーはAのキャディーとみなされ、Aが罰を受けることとなります。

また、共用しているキャディーがあるプレーヤーの特定の指示のもとに行動しているときはその指示をしたプレーヤーのキャディーとなります。例えば、A、B、C、Dの4人のプレーヤーで1人のキャディーを共用している場合、Aに「クラブを持ってきて下さい」と指示されて行動していたキャディーがBの球を動かしてしまっても、AのキャディーがBの球を動かしたことになるので誰にも罰はつきません。

キャディーが行っても良い行為

Q クラブの持ち運びやアドバイス以外で、キャディーが行って良い行為にはどのようなものがあるでしょうか？
A すべてではありませんがキャディーが行っても良い行為の例は以下の通りです。

- 球の搜索
- クラブをハザード内に置くこと
- 古いホールの埋跡とホールマークの修理
- パットの線上にあるルースインペディメントの除去
- 球を拾い上げずに、球の位置をマークすること
- 規則に基づいて球をふくこと
- 動かせる障害物を取り除くこと

エチケットの重大な違反

規則では個々のエチケットの違反について罰を規定しているわけではあり

ません。しかしながら、委員会が注意をしたにもかかわらず、エチケットの違反を止めなかったり、その行為がエチケットの重大な違反であると委員会が判断した場合、そのプレーヤーを**競技失格**にしたり、あるいは以後の競技への参加を認めない、コースへの立ち入りを禁止するなどの措置をとることができま(R337/8)。

規則を守らないことに留意する

Q ストロークプレーで、短いパットはプレーしなくても1打でホールに入ったことにすることをプレーヤー間で申し合わせをしてラウンドした場合、規則違反となりますか？
A プレーヤー達がストロークプレーではホールアウトしなければならぬという規則(R312)を知っていないが、その規則を守らないことに合意したのであれば、関係競技者は**競技失格**となります(R113)。

スタート時間とは

Q スタート時間が9時00分なのですが、いつまでに1番のティーインググラウンドに行かなければならないのでしょうか？
A 9時00分00秒にプレーできる状態でティーインググラウンドにいなければなりません。

自分のプレーする順番が4番目で実際には9時3分ぐらいのスタートになるような場合であっても、スタート時間はあくまで9時00分ですので、その時間にティーインググラウンドにいなければなりません。

スコアカード

署名をする場所を間違える

Q スコアカードのメーカー署名の欄に自分の署名をし、自署の欄にメーカーの署名をもらってスコアカードを提出してしまいました。このスコアカードは有効でしょうか？
A プレーヤーとメーカーの署名がされていれば場所を間違えてもスコアカードは有効です(D616b/1)。

スコアカードを無くしてしまった

Q スタートの時に委員会が発行したスコアカードをラウンドの途中で落としてしまいました。この場合、どのようにすれば良いですか？
A スコアカードを紛失しても罰はなく、別の紙にスコアをメモするなどして、スコアカード提出時にスコアカードを委員会に再発行してもらえば良いのです。

メーカーが棄権した

Q ラウンド中に自分のメーカーだった同伴競技者が棄権をしてしまいました。この場合、どのようにすべきですか？
A 棄権するホールまでのスコアに対する署名をメーカーにもらい、以後のホールについては新しいメーカーにスコアを記録してもらい、その部分について署名をもらうこととなります。通常、棄権があったホールで委員会が新しいメーカーを指名しますが、委員会がその場にはない場合は、同伴競技者にメーカーをお願いし、スコアカードを

提出する前にメーカーを変更したことを委員会に告げ事後承認を得ることとなります。

スコアカードにイニシャルで署名(201415裁定集より)

Q ホールアウト後、スコアカードの署名欄に名前のイニシャル(例:T.K)を書いて提出した場合、その署名は有効なのでしょうか？
A そのイニシャルがスコアカードの記載内容を証明するためのものであることが明らかであればそのような署名は有効ですが、そのような証拠がなく、記載されている文字が何かのメロイ印など署名以外のものと疑われるような場合は署名としては認められないことがあるので、明白な署名をすることが勧められます。

Q & Aで使用している文言はできるだけゴルフ規則の文言を使用しておりますが、説明を簡単にするためにゴルフ規則の文言を言い換えているものもあります。解説を簡潔にするために「マッチプレーの規則」以外のプレーに関するQ&Aの事例は個人競技のストロークプレーを前提とした内容となっています。(R112)は規則112を意味します。(D112/1)はR&A、USGA合同規定12/1を意味します。

JGA(公財)日本ゴルフ協会が発行する唯一のゴルフ規則解説書 本体600円+税

